

## 内装ドア天然木タイプ お手入れ方法のご案内

ドアをいつまでも美しく保つため、下記のお手入れをお薦めいたします。

### 日頃のお手入れ

- ◇通常のお手入れは軟らかい布などで乾拭きをしてください。
- ◇水などが表面にかかった場合は出来るだけ早めに乾いた布などで拭き取ってください。
- ◇乾拭きで落ちない汚れはよく絞った布などで拭き、その後乾拭きしてください。



ご注意

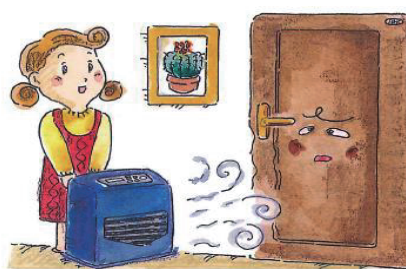
- ドアなどにホコリをつけたまま拭き掃除せず放置しますと劣化原因となります。まめなお手入れが肝心です。
- 基本的に水拭きは避けてください。木製品は水分を含むと膨らみます。また、シミの原因にもなりますのでご注意ください。
- 木製ドアは水分や、太陽の紫外線などを避けることにより商品寿命が大きく変化します。
- ストーブ・ヒーターなどの熱源に近い場所では、劣化・変色などを生じる場合がありますのでご注意ください。
- ワイヤーブラシ・スチールウール・金へら・目の粗いタオル等は使用しないでください。
- 洗剤・シンナー・ガソリン等の有機溶剤、自動車用ワックス、化学雑巾等は表面をいためる原因となりますので使用しないでください。



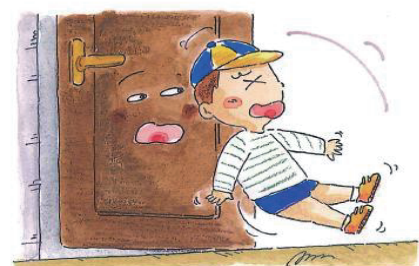
### 安全に関するご注意



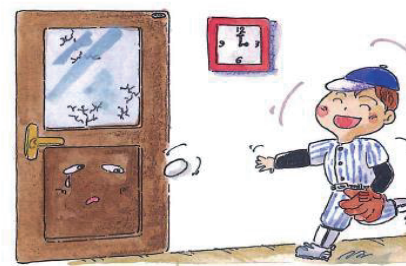
- 取手以外の場所で、扉の開閉をしないでください。手や指などをはさんでケガをすることがあります。



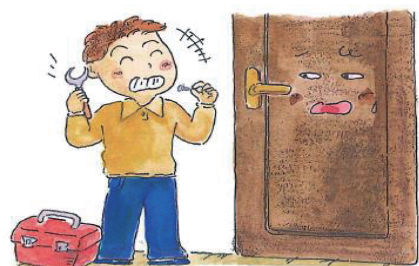
- 扉や枠に冷暖房器具の冷・熱風などが直接あたらないようにしてください。変形・変色することがあります。



- 扉に寄りかかったり、ぶらさがったり、物を掛けたりしないでください。転倒、落下の恐れがあります。



- 扉に強い衝撃を与えたり、ガラスに傷をつけたりしないでください。割れる恐れがあります。



- 扉や枠、金具などを改造・分解しないでください。機能低下の原因になります。



- 取付けは専門の業者に依頼ください。

### <ハンドルのお手入れ>

- 定期的に(1週間に1回程度)乾拭きをすることによって、汚れや水分が長時間留まらないようにすることが非常に効果的です。
- 汚れが取れにくい際は、薄めた中性洗剤液で汚れを拭き取った後、洗剤が残らないように水拭きした上で、乾拭きしてください。  
水拭きと乾拭きにより、キズ部から錆発生が広がらないようにご注意ください。

### 使用上のご注意 ※必ずお守りください

- 取手、ドア等に水をかけないでください。(サビ、故障の原因となります。)
- 下記の道具や洗剤、溶剤等は使用しないでください。(ドアを傷める原因となります。)
- ◇シンナー等の溶剤およびガソリン等
- ◇漂白剤や洗剤の原液
- ◇酸性・アルカリ性の強い洗浄剤等
- ◇研磨剤やコンパウンド等
- ◇タワシやサンドペーパー等
- ◇カネベラやブラシ等
- ◇塗料全般
- ◇その他、塗膜表面を傷めるもの
- ペット等の排泄物は放置しますと腐食の原因となります。
- こまめに拭き掃除することをお薦めいたします。